

# フレーベルの思想

フレッツチャーに據る

## 紹介

### ▲彼の著作の基調▼

フレーベルの著作全體に渡つて居る基調は幼兒に對する情熱的の愛と高尚な、しかし漠然とした唯心論とであります、而してこの唯心論は絶えず同様に漠然とした萬有神論に入らうとする傾向を有して居るのであります。これがフレーベルの思想を支配し、彼の著作のすべてに基調を與へたのであります。

彼は斯る基調を持つてゐた爲めに、又それが漠然としてゐた爲めに、熱心な幼兒教育者を惹き附けることが出来たのであります。幼年時代といふものは人生の中で最も好ましい時代の一つに屬して居ります、而して幼兒と親しく交ふことは實に

楽しくうれしいことであります。

子供は始終何の屈托もなく、生々としてゐて停滞するところがありません、これは嚴肅な生眞面目な大人には實に羨ましくも思はれる境涯なのであります。若し子供と一緒になつて遊ぶことが出来ないといふやうな人がありましたらばその人は「如何なる犯罪にも適する」程に缺陷のある人であるやうに私達には見えるのであります。

子供と一緒になつて遊んだり、半端な時間を費したりするのはたゞそれだけのことでありませんが一生の大部分を子供のために犠牲としてその感化教導のために盡し、子供の缺點を矯め、子供の氣隨氣儘に堪え、徐々にこれを善良な習慣に導いて行くといふことは容易な業ではありません。

## ▲唯心論と人類の愛▼

子供の感化教導の爲めに、一生を犠牲に供するといふことはその一生を狭め、世間に對する智識を限ることになり易いのであります。

取扱ふ兒童が幼ければ幼い程、この傾向は顯著であり、この傾向に反抗することが困難であります。或る人氣のある作家が有名な學校小説の中で一教師の口を借りて「諸君、私達の生活は矮小的生活であります、收縮的生活であります、神様はすべての小學教師をお救ひ下さいます、小學教師は神様を求めて居るのであります」と言つて居ります。この危険を認めて居る教師達は何か健全な調理薬を探し出さうとして居るのであります。而して多くの教師達はその調理薬をフレーベルの唯心論と情熱的な人類の愛との中に發見しました。豫言者を刺戟した思想を、その源泉にまで溯つて考へてみるといふことは常に有益なことであり

ます。何故ならば私達は常にこの源泉に於て、その豫言者の教示に表はれて居る思想の力の秘密を發見することが出来るからであります。

フレーベルが何故にその一身を子供のために捧げたかといふことは明瞭簡單に説明されます、それは彼がその子供時代に於て顧慮せられず、理解せられなかつたからであります。彼はその自叙傳の中に次のやうに書いて居ります。

「早くから私は悲痛苛烈な人生の争闘の中に投げ入れられて了つた、而して不自然な生活と不完全な教育とが私の上にその勢力を働かして居たのである。」

放棄せられ、誤解せられて、彼は、子供の強く要求するところの溫き同情といふものに包まれたことがなかつたのであります。彼の母は彼がこの世に生れて九ヶ月経つと亡くなつて了ひました、彼の父は彼をあまり愛さず、早くから子供らしく扱つてやることを止めて了ひました、それから又彼

の繼母は世間一般が繼母といふ名に對して懐く忌はしい想像の實現者であつたのであります。斯る周圍を持つて居る子供は普通ひねくれた厭ふべき性質を持つやうになるものであります。フレーベルの場合に於ては全然別種の結果を取るやうになつたのであります。彼は内省的でもあり、自己解剖に忙しくもありましたから、彼の感じ易い氣質は傷ましきまでに惱んだに相違ありません、又彼は決して子供時代の苦惱を忘れもしませんでした

### ▲苦悶の熔爐▼

けれども苦悶の熔爐を通つて來た彼の心靈は決していぢけたものとなつてはゐませんでした、否々益々麗しいものとなつてゐたのであります。妙にこぢれたり、皮肉になつたりする代りに、彼は彼自身と彼のすべてとを捧げて他の子供と同じやうな苦い經驗から救ひ出すことに努めました、まことに子供の彼に負ふ所や大なるかな、何故なら

ば彼の苦い經驗とその情熱的な申立とは、子供を單に可愛なもの、若しくは玩具として扱ふのではなく、尙又うるさいのを我慢するのではなく、進んで之を理解し、温き同情を寄せてやらなくてはならぬといふことを知らしめたのであります。而して幸ひなことには現今ではこの子供に對する温き同情といふものが未だ嘗つて見られなかつた位にまで行き渡つて來たのであります。フレーベルはその子供時代から、自らは暗い淋しい道を辿りながら、彼がその生涯を捧げた仕事に不斷にその新勢力を注ぎ來つたのであります。

フレーベルの感じてゐた力の第二の源泉は當時の獨逸の思索家の殆んどすべてが奉じてゐた唯心の哲學であります。十八世紀の終頃、獨逸は政治的には實に否運の頂點に在りました、而して獨逸聯邦の夢は殆んど實現せられさうにも見えませんでした、しがし丁度この時に形勢を一變させることが起つて來ました、それは軍人や政治家の方

から起つて來たのではなく、哲學的詩人シラー、詩人的哲學者シユリングの如き詩人や思索家の方から起つて來たのであります。事實の世界からではなく思想界から、氣息奄々たりし獨逸に新生命を吹き込んだところの新しい精神力が出て來て現今世界諸國の認めて居るやうな人類の智的生活に於ける誇らしき地位を獨逸のために贏させたのであります。

### ▲唯心論の影響▼

その頃獨逸には「獨逸國民に告ぐ」に於てその實際的の唯心論を明示して居るフイヒテや、自然を可見的理性と見、理性を不可見的自然と見て、自然そのものは、自意識として人間に現れて居る理性と同一の理性を現して居るものであると説くシユリングの形而上學的唯心論が行はれて、當代の人心に非常な影響を與へてゐました、殊にこの唯心論がゲーテやシラーに影響して詩的情緒に温めら

れますと瞬く間に獨逸國內は無論のこと全歐羅巴に擴つて了つたのであります。

フレーベルも確かに是等の思想に影響せられたのであります。彼は別段に哲學を教へられたことはありませんでした、彼の教育は大部分は自習であつたのであります。イエナで費した短い年月とゲツチンゲン及びベルリンに於ける間歇的研究は主に數學と自然科學との爲に捧げられました。

彼は「數學を除く他、理論的の講義を聞いたことはない、哲學に就ては交友の間に於て得た僅かの智識を有するに過ぎない、しかし私はこれによつて多くの刺戟的思想を受つたのである」と言つて居ります。

當時イエナ大學は名聲の極頂に達して居りました、イエナは實に獨逸の思想界の中心であつたのであります。カントの哲學もこゝで非常に歓迎せられました、哲學の講座はその後、引續いてフイヒテ、シユリング、ヘーゲル等に依つて占められ

たのであります。

フレーベルの哲學的幻想——何うもフレーベルのは哲學的思索といふには不適當であります——は哲學體系の研究から來て居るといふよりも自然との交通から來て居るといふ方が當つて居るのであります。彼はその一生を通じて哲學的思索家であつたと言ふよりも哲學的夢想家であつたといふ方が當つて居るのであります。彼の哲學は明確に思考せられた體系ではなくして、心の有様であつたのであります。

### ▲自然との交通▼

彼の自然との交通は親密でありました、而して一生を通じて渝らないものであります。子供時代にはチューリンゲンの森林地方にある彼の家の美しき周圍が彼の夢みがらな内省的な心の中に入つて行きました。彼は斯う語ります。「自然、私の見ることが出來、理解することの出來る、木の育ち花の咲く世界は早くから私の觀察、反省の對象となりました。」

ノイハウスに於てチューリンゲンの林務官の見習生を勤めてゐた頃には彼はよく一人で靜かな森の中へ入つて行つて時を消して居りました、而して自然を愛し、敬する心は遂に彼に於て抜き難き宗教心となつたのであります。彼は斯う語ります、「私の教會的宗教生活は今や自然界的宗教生活に入りました、而して後半年に於て私は全く植物の中で植物と共に生活しました、植物は堪らなく私を惹き附けたのであります、尤もこの時分には未だ植物界の内部生命に關する智識は少しも私の心の内には啓けてはゐなかつたのでありますが」

斯くの如くフレーベルは生得の傾向に依つて、又子供時代の周圍に依つて、當時行はれてゐた唯心論的概念を悦んで迎へ取るやうに運命づけられてゐたのであります、而してこの概念から出發して無限といふもの、考察に際しては半神祕的の惠念に入つて了つたのであります。彼の著作の多くが容易く漠然とした概括性に赴いて了ふのも彼の唯心論的の傾向が然らしむるのであるとも見られるのであります。